



鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間 1 1 6 1 番地
令和 2 年 1 2 月 1 日

第 8 号

「古典に親しみ、人格形成にも資する古典暗唱」

～晩秋の国語科授業から～

校 長 服部幸司

♪今は昔、竹取の翁おきなといふものありけり。野山にまじりて竹
を取りつつ、よろづのことに使ひけり…<1年生の教室>♪
み祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花
の色、盛者必衰の理ことわりをあらはす…<2年生の教室>み

晩秋から初冬の国語教室では、多くの教室で風物詩のよう
に古典の暗唱が行われます。文章の理解における音読(声
に出して読むこと)の重要性は、自身の経験からも、また、
我が子の音読の宿題等からも承知されていることと思います。
ことさら、古典の理解には音読は大切であり、古典に親しむ
第一歩は音読です。



ある1年生の教室では、美しいかぐや姫に求婚する貴公子の奮闘ぶりを絶賛する声が上が
ります。「かぐや姫に頼まれた宝物を架空の山である蓬莱山ほうらいさんに命を懸けて行って来た。大変見
劣りするものだったが、その山みかどで見つけてもってきた…、嘘とは言え、ここまで考えるのはす
ごいと思います。」等々。また、帝みかどがかぐや姫からもらった「不死の薬」について、「皆さんは『不
死の薬』は欲しいですか。」と聞かれると、生徒は一人一人真剣に考えます。「僕は、もしかしたら
事故等で手足を無くすこともあるかもしれません。そのような状況になっても死ねない、という
のは辛いです。だから不死の薬はいりません。」と答えます。さらに、ある女子は

真顔で「私は、老けてまでも生きてたくありません。」と答えます。一瞬教室の雰囲気まがわが固まり、
国語担当のベテラン女性教諭がその女子生徒の顔を見つめます。そして、「〇〇さん、今もしか
して私の方かみだいてを見て言った？」と言ってニコリと笑います。その瞬間、クラス中、女性教諭の
笑顔かみだいての神対応につられて、大爆笑です。正に古典に親しんでいるのです。

授業後、女性教諭、「校長先生には、※高尚(こうしょう)な古典の授業をやるべきところ、こ
のような授業やれとなり、恥ずかしいところをお見せしました。」、校長、「※口承(こうしょう)文学 だか
らね」と洒落て応じ、授業を振り返りましたが、とにかく生徒の
エネルギー、そして変容には驚く毎日です。

2年生の教室では、み祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり
…み、漢語を巧みに交えて、独特の調子とリズムがある、語りの
文学の最高峰である『平家物語』だからこそ、暗唱できている
ことを知ってか知らずか、「音読」そして「暗唱」という学び方
で、「武士の生き方」や「世の中は常ではない」ということを生徒
は想像し、実感しています。



これからの人生、有名な古典の音読・暗唱で獲得したフレーズ
を大人になっても思い出し、その言葉に支えられることも多いは
ずです。そして、同時に、今の生き方を見つめることにつながると
思っています。

※高尚…品格が高く上品なこと ※口承文学…文字ではなく口頭で伝わった文学